

次の文章を読み、まずこの文章の要点を述べ、次に英語教育のあり方についてあなたの考えを述べなさい。全体で600字以上800字以内で書きなさい。

日本の英語教育にはさまざまな場面や方法がある。例えば、子供向けの英語教室では英語で歌を歌ったりゲームで遊んだりすることが多い。その方法が採用されているのは、小さな子供がまだ文法の説明を理解できないからであるが、他の人と一緒に英語を使ったほうが楽しいからである。大人向けの英会話学校では、生徒が興味を持つトピックに関する自由なやり取りを中心に授業が行われることが多い。文法の説明や辞書の利用を禁止する英会話学校すらあるようだ。外国語を勉強しようとする社会人の大半は言語オタクではないので、自分の稼ぎで授業料を払うとなると会話を重視する学校を選ぶ傾向がある。好きなことについてお喋りすることが好きだという点では子供と共通であるが、大人の場合は文法中心の勉強をすると英語が上手にならないと考える人は少なくないようだ。私みたいにおタク的な学習法で外国語を習得した人からは反論があるかもしれないが、幼児のためにも大人のためにも言語の社会面を重視する学び方が好まれる傾向が強いことは否定できない。

しかし、幼児向けの英語教室と社会人向けの英会話学校の間に、長年の学校英語教育がある。日本に住んでいる中学生や高校生の多くは実際の場面で英語を使う機会がほとんどないので、社会的なアプローチは実施しにくい。ロールプレイなど模擬社会的な方法で頑張っている高校教師もいるが、実際のトピックに関する会話ほど生徒が面白がらないのだ。成績や試験のスコアを上げるために、単語の暗記や文法の練習など認知的な教育は実際に役に立つ場合が多い。英語に対してオタク的な興味を持つ生徒、入試に向けて頑張っている生徒にはその認知的アプローチが良いかもれないが、言語に対してオタクではない、学習に対して熱心ではない大半の生徒は、学校の英語教育を退屈そのものに感じるのだ。

言語の問題の一つはその両面性にある。一面では、言語とは個別の文字、音、単語などが文法という決まりで結びついているシステムだ。もう一面は、人間のあらゆる交渉、協力、喧嘩、恋愛、商売に関わる、情報や感情を伝え合う手段である。前者は複雑だが、個別の要素がはっきりしていることで理解しやすい。複雑な体系が好きな人にとっては面白い。しかし、実用には限界がある。後者は曖昧で時と場合によって流動的であり、体系的には把握しにくい。でも、人間関係、人の感情などに興味を持つ人にとっては後者こそが言語の醍醐味だ。教育や学習では言語の両面を適切なバランスで考慮するのが理想だが、教育現場のニーズや教育者と学習者の好みによってどうしても偏りが生じる。この不均衡もまた、言語の問題の一つなのだ。





受験番号